

### 入学おめでとうございます

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんを迎えることは、大学にとって大きな喜びであり、教職員一同心から歓迎します。

また、山下京都府副知事様はじめ、公私とも御多忙のところ、ご臨席賜りました来賓の皆様にも、厚く御礼申し上げます。あわせて、ご家族、関係者の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。

きょう、こうして出会うことができたみなさんに、これからの大学生活で大切にしてほしい、大きく二つのことをお話したいと思います。

### 「いきることと、学ぶこと」

まず、「いきることと、学ぶこと」の関係についてです。

「いきる」という言葉は、生命の「生」と活動の「活」の二通りの漢字をあてはめることができます。「生」の「生きる」は命を守り、維持することを、「活」の「活きる」は、効力や持ち味、本領を発揮することを意味していますが、きょうは、「生」の「生きる」を、「自分を生きる」、「活」の「活きる」を、「自分を活かす」と読むことで、みなさんが、これから大学で学んでいくことの意味を考えてみたいと思います。

「自分を生きる」とは、人生を自分自身の意志で、意識的につくっていくこと、目標を持ち、その実現に向けて様々な経験を重ねていくという意味です。自分が、いま人生という時の流れの中にあっどこにいるのか、周囲の環境・社会とどのようにつながっているのか、時の流れ・歴史の中の自分、そして、社会・世界の中の自分を発見していくことが、目指す目標の実現に向かっていくことにつながります。

次に、「自分を活かす」ということは、自身の感性や、ものの見方・考え方をもとに、持てる力を発揮して、家族や友人など身近な他者との関係、広く社会との関係を結び、何らかの役割を引き受けていくという意味です。何らかの役割を引き受けて、他者の幸せや社会の福祉に寄与していくためには、他者の存在、自分を取り巻く世界の物語を読み開き、能動的に働きかけていくことが必要です。

つまり、「自分を生きる」にも、「自分を活かす」にも、私たちを取り巻く現代の世界との関係の中に、自分をとらえていくことが、求められているのです。ここに、学ぶことの意味が見えてきます。

いい点数をとるため、進学のための、手段としての“勉強”ではない、「いきる」こととしっかり結びつけた学びの世界、そして世界の実相、真理に迫る研究が、みなさんを待っています。

### 多様性の中で、アイデンティティを確立する

今日、インターネットに見られるような情報通信手段の高度な発達によって、私たちは、世界中の様々な地域の文化や、そこに暮らす人々の価値観を知ることができます。文化や価値観の相違は、時として深刻な対立を生み、人々に苦難をもたらすことがあります。多様な文化や価値の交流が平和的に実現されるならば、広く深い世界が拓け、人々の暮らしに心の豊かさをもたらしてくれます。違いを受け止め、認めあいながら、人それぞれが、その生き方、価値観を形成していくことは容易ではありませんが、これからの時代に生きるみなさんには、そのための感性と智慧が求められています。多様性の中で、自分自身のあり方・アイデンティティを如何に確立していくか、ということが今を生きる私たち共通の学びの課題となっているのです。

京都府立医科大学、京都工芸繊維大学と共同で取り組まれている本学の教養教育においても、「文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むこと」が目指されています。

学部入学生のみなさんには、専門の分野の入門・基礎を学びつつ、ここまでお話してきたような学びとしての教養をしっかり身につけていってほしいと思います。大学院に入学されたみなさんは、自らの研究において、主体的に考え行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけていってください。

### 京都府立大学の使命

二つめに、京都府立大学の社会的使命について、お話したいと思います。

本学では、大学の目的・あり方の基本を成文化した「理念」とそれに基づく「行動憲章」を2008年（平成20年）に定めています。これらは、ガイダンスで配布される「学生便覧」、あるいは大学ホームページなどに掲載されていますので、詳細はそちらを是非一読いただきたいと思います。また、「理念」では、「京都府立大学は、京都府における知の拠点として、広く人文・社会・自然の諸分野にわたる真理を探究し、教育するとともに、その成果を健康と福祉の向上、産業の振興、文化の継承発展、国際社会の調和ある発展に活かすことを目的とする」と定めています。また、「行動憲章」の前文では、「長い文化的伝統を持つ京都の地において、本学が百十余年にわたって府民に支えられつつ学問の府として活動してきた歴史」に触れ、「地域社会の発展と府民生活の向上、さらには人類の幸福に貢献します」と謳っています。みなさんの学びは、みなさん一人だけのものではなく、多くの府民に支えられた、地域社会にとっての宝でもある、ということをご心に留めておいていただきたいと思います。

### 地域に学び、地域とともに成長する

本学では、教員を中心に地域の課題をとらえた研究活動が活発に行われていると同時に、学生のみなさんが府内の様々な地域に出かけて体験的に学ぶ機会が、京都府や府内市町村、企業や団体などの支援によって、豊富に設けられています。

先ほどの自分を「活かす」というお話と重なってきますが、みなさんには、このような公立大学ならではの条件を活かして、地域に学び、地域とともに成長していく、アクティブな大学生活を送ってほしいと思います。

### 北山文化環境ゾーンから、次代を拓く学びを

本日の入学式の会場であるこのコンサートホールの南には、先ほど申し上げた教養教育の共同化のための施設「稲盛記念会館」が真新しい姿を見せていますが、その隣では、本学の文学部研究室、図書館、そして府立総合資料館、京都に関する国際的な研究機関としての国際京都学センターからなる、複合施設の建設工事が進んでいます。更には、植物園、コンサートホールなど魅力的な施設を擁する、北山文化環境ゾーンという恵まれた環境に本学はあります。幸い、本学は、規模も小さく、お互いの顔が見える学びのコミュニティーをかたちづくっており、身近な触れ合いのなかで、お互いの人間性を磨いていくことができます。これからの時代を拓く学びに最適の場とよいでしょう。

きょうから、学部・大学院での学習と研究を通して、他者とともに自分を生き、持てる力を活かして京都と世界の新しい時代を切り拓いていく、そんな学びをつくっていきましょう。

結びに、新入生のみなさんへの、心からの歓迎と連帯の熱い思いを添えて、ご列席のみな様のご健勝と益々のご発展をお祈りし、式辞といたします。

平成27年4月3日  
京都府立大学 学長 築山 崇